

2014年度決算の概要



学校法人 関東学院

2014年度（2014年4月1日から2015年3月31日まで）の本法人の収支決算は、2015年5月23日開催の理事会で承認、法人評議員会において報告いたしました。「資金収支計算書」「消費収支計算書」「貸借対照表」は、学院各学校予算単位の決算などを基に、私立学校法第47条第1項の規定に基づき定められた「学校法人会計基準」により作成したものです。

2014年度決算の状況と分析

2014年度決算は、帰属収入合計が、前年度比で2億2,516万円減少し、191億5,655万円となりました。主な増減は、増加が補助金、資産運用収入、雑収入でなり、減少が学生生徒等納付金と資産売却差額です。増加の要因は、補助金が前年度、建築・環境学部の入学者数超過による不交付があり、大きく減少していたことから前年度比1億834万円増の24億3,002万円となったこと、資産運用収入は早期償還等により9億3,958万円（前年度比1億2,600万円増）となったことが原因です。雑収入は退職者数増加による退職金財団からの交付金増により、7億3,970万円（前年度比1億9,477万円増）となりました。一方減少の要因は、学生生徒等納付金が学生数の減少により、140億27万円（前年度比4億1,364万円減）となり、資産売却差額は、前年度に土地建物を売却したことによる一時的な増加があったことから、前年度比3億1,427万円減の1億238万円となりました。

基本金組入額は、第1号基本金として、大学5号館（金沢八景キャンパス）建設、小学校管理棟の建替え等の施設建設プロジェクト事業に係わる組入れ、第2号基本金として、三春台校地再整備資金に係わる組入れ、第3号基本金として、大学給付奨学金基金の組入れを行い、総額16億4,798万円（前年度比4億6,541万円増）の組入れを行いました。

帰属収入から基本金組入額を差し引いた消費収入の部合計は、175億857万円（前年度比6億9,057万円減）でした。

消費支出合計は、前年度比で8,134万円増加し、199億1,657万円です。主に増加したのは人件費、減少したのは資産処分差額となりました。人件費は退職者数の増加による退職給与引当金繰入額増により、113億9,513万円（前年度比3億8,529万円増）となり、資産処分差額は前年度に土地建物を売却したことによる一時的な増加もあり、前年度比3億3,761万円減の1,151万円でした。

帰属収支差額は、前年度比3億650万円減少し、7億6,001万円の赤字となり、当年度消費収支差額は、前年度比7億7,191万円減少し、24億800万円の赤字決算という結果となりました。

財務比率について、日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」より全国の医療系を除く504大学法人の2013年度決算の平均値（以下、全国平均値）と比較した場合、以下のとおりです。

①人件費比率は増加傾向にある比率である。全国平均値（52.4%）と比較した場合7.1%高く59.5%である。また前年度と比較した場合2.7%増加している。また、2011年度より文部科学省からの通知による退職給与引当金の100%積立てに伴う変更時差異（不足分）を退職給与引当金特別繰入額として10年間行っていることも人件費比率に影響を与えている。

②帰属収支差額比率は減少傾向にある比率である。全国平均値（5.2%）と比較した場合9.2%低くマイナス4%である。また前年度と比較した場合1.7%減少し、2年連続で当年度の帰属収入で消費支出が賄われていないため、マイナスとなっている。この状況は一時的に留め、長期化させてはならない。

③自己資金構成比率は全国平均値（87.4%）と比較した場合1.8%高く89.2%である。また前年度と比較した場合、0.2%減少した。ここ数年は89%前後で推移し安定している。

④消費収支差額構成比率は全国平均値（マイナス12.2%）と比較した場合6.4%高くマイナス5.8%である。また前年度と比較した場合2.3%減少している。消費収支差額の支出超過（累積赤字）を解消するには、当面、帰属収支差額を収入超過とすることが課題となる。

⑤流動比率は全国平均値（245.9%）と比較した場合212.9%高く457.9%である。また前年度と比較した場合197.4%増加している。しかし、今年度は、運用時に早期償還された資産を流動資産のまま保有していることが、流動比率に影響している。

⑥総負債比率は全国平均値（12.6%）と比較した場合1.8%低く10.8%である。また前年度と比較した場合0.2%増加している。ここ数年11%前後を推移し安定しているが、帰属収支差額の支出超過（マイナス）が長期化する等、経営が悪化した場合は、大きく比率を引き上げることになる。

学校法人会計の特徴と企業会計との違い

営利目的の企業では、利益の最大化を目的として活動するので、どれだけ成果をあげたのか（どれだけ純資産を増やしたのか）が重要なのにに対し、非営利組織である学校法人では、永続的な教育研究活動を遂行することを目的として活動するので、期首の純資産額が維持されたかどうか（組織が存続するための必要条件）を確認するための収支均衡状況が重要です。

「資金収支計算書」は、本法人の当該年度の諸活動にかかるすべての収入・支出、資金の動きを総額で明らかにしたものです。これは企業会計における「キャッシュフロー計算書」に相当するものです。損益には関わらない前受金、預り金受入収入などの資金収入や、固定資産取得時の資金支出などを含め、どのような活動で支払資金が増減したのか、収入及び支出の顛末を明らかにする計算書です。

企業会計における「キャッシュフロー計算書」は、当期中の資金の増減の原因を、営業活動によるキャッシュフロー、投資活動によるキャッシュフロー、財務活動によるキャッシュフローの3つに区分して表示しますが、学校法人会計における「資金収支計算書」にはこのような区分がありません。しかし、学校法人会計基準の一部改正に伴い、2015年度の計算書類からは新たに「活動区分資金収支計算書」を追加作成します。この「活動区分資金収支計算書」は、企業会計の「キャッシュフロー計算書」の活動別に区分して計算する考え方が取り入れられ、教育活動による資金収支、施設整備等活動による資金収支、その他の活動による資金収支の3つに区分して計算することにより、活動区分ごとの支払資金の収支差額を把握しやすくするものです。

「消費収支計算書」は、本法人の当該年度の経営状況を表す仕組みを担っており、企業会計でいうところの「損益計算書」にあたるものです。その計算の仕組みに学校法人会計の特徴があります。

企業の「損益計算書」は、企業の経営成績を明らかにするために、当該会計期間におけるすべての収益及び費用を、営業利益に営業外損益を加減して経常利益を計算し、これに特別損益を加減して当期純利益を表示します。学校法人会計における「消費収支計算書」では、負債とならない収入（帰属収入）から、「基本金組入額」を差し引き、その残高を「消費収入」とします。この消費収入は、その年度の事業に使うことができる資金量を意味します。消費収入から人件費、教育研究経費、管理経費等の経常的支出である消費支出を差し引いた差額を消費収支差額といい、消費収支が均衡していることが望ましいとされています。

「消費収支計算書」についても、学校法人会計基準の一部改正に伴い、2015年度の計算書類からは「事業活動収支計算書」に変更されます。

「事業活動収支計算書」では、教育活動収支、教育活動外収支、特別収支の区分に分けて計算することになり、区分ごとの収支差額が把握しやすくなります。また、学校法人会計の特徴でもある「基本金組入額」の表記も変わり、帰属収支差額（帰属収入－消費支出）が「基本金組入前当年度収支差額」欄に表記されるので、基本金組入前と基本金組入後の収支状況が読み取りやすくなります。

「貸借対照表」は当該会計年度末時点（決算日）における資産・負債・正味財産を明らかにし、本法人の財政状態を表すものです。「貸借対照表」は、企業会計も学校法人会計もほぼ同じ構造ですが、資産－負債＝純資産（基本金）となる企業会計とは異なり、学校法人会計では、資産－負債＝正味財産（基本金＋翌年度繰越消費収入超過額または翌年度繰越消費支出超過額）となります。

学校法人会計における「基本金」は、企業会計の「基本金」とは全く異なるものです。「基本金」は学校法人が永続的な教育研究活動を遂行する学校の機能を維持するため、教育研究活動に必要な校地、校舎、機器備品、図書等を継続的に保持するために維持すべき資産（財源）です。基本的に固定資産などの取得金額になります。

このように、学校を運営し教育研究活動を円滑に遂行することを目的とする学校法人では、会計においても企業会計とは異なる特徴があります。

2014年度 資金収支計算書

(単位 円)

資 金 収 入 の 部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	14,551,405,000	14,000,273,314	551,131,686
手数料収入	385,309,000	434,541,650	△ 49,232,650
寄付金収入	111,158,000	127,888,503	△ 16,730,503
補助金収入	2,452,619,000	2,430,023,343	22,595,657
資産運用収入	572,874,000	939,575,764	△ 366,701,764
資産売却収入	1,300,000,000	14,320,783,935	△ 13,020,783,935
事業収入	408,023,000	367,672,714	40,350,286
雑収入	496,358,000	736,634,249	△ 240,276,249
前受金収入	2,576,072,000	2,596,079,150	△ 20,007,150
その他の収入	1,874,338,266	7,479,193,475	△ 5,604,855,209
資金収入調整勘定	△ 2,960,093,530	△ 3,066,502,346	106,408,816
前年度繰越支払資金	5,778,451,216	5,778,451,216	
収入の部合計	27,546,513,952	46,144,614,967	△ 18,598,101,015

有価証券売却収入で年間の売却額の合計です。

翌年度入学予定の学生生徒等から受け入れる授業料や入学金などの額です。

特定の目的のために積み立てた預金等の満期償還や貸付金、預り金、立替金等を受け入れたり回収したときの収入です。

当年度の収入として計上しましたが、資金は翌年度以降に受け入れるものや、前年度に前受金としてすでに資金を受け入れているものを差し引くことにより、当年度の資金の収入額を明らかにしています。

主な支出内容は、次の通りです。

- ・大学 金沢八景キャンパス
- 5号館(建築・環境棟)建設工事、EF館第3期改修工事
- ・六中高 3号館空調設備及び内装改修工事
- ・小学校 管理棟 建設工事

主な支出内容は、次の通りです。

- ・大学 ネットワークシステム
- 理工学部 実験研究用 設備機器
- ・六浦中高 ICT環境整備、PC教室 備品

公社債、投資信託の年間購入額の合計及び退職給与引当特定資産、減価償却引当特定資産等への繰入額です。

前年度中の活動に係る支出のうち、当年度に支払われた未払金、前払金、立替金などの支出です。

当年度の支出として計上しましたが、翌年度に支払うものや、前年度に前払金としてすでに計上していたものを差し引くことにより、当年度の資金の支出額を明らかにしています。

資 金 支 出 の 部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	10,754,555,000	11,003,843,667	△ 249,288,667
教育研究経費支出	4,191,750,000	4,026,502,066	165,247,934
管理経費支出	1,393,902,000	1,480,627,823	△ 86,725,823
借入金等利息支出	627,000	625,342	1,658
借入金等返済支出	125,000,000	125,000,000	0
施設関係支出	2,177,530,000	1,840,524,448	337,005,552
設備関係支出	1,102,811,000	705,519,905	397,291,095
資産運用支出	2,444,089,000	10,429,426,683	△ 7,985,337,683
その他の支出	1,945,288,165	2,042,821,527	△ 97,533,362
[予備費]	[168,784,000]		
資金支出調整勘定	△ 1,706,267,257	△ 1,568,772,518	△ 137,494,739
次年度繰越支払資金	5,117,229,044	16,058,496,024	△ 10,941,266,980
支出の部合計	27,546,513,952	46,144,614,967	△ 18,598,101,015

2014年度 消費収支計算書

(単位 円)

授業料、入学金、実験実習料、施設設備資金、維持料、その他の納付金(学会費、学生保険等)が含まれています。

各学校の入学検定料と大学における編入試験等の試験料、センター試験実施手数料及び証明手数料等です。

学院各校のテーマ募金や、研究奨学金、学生の課外活動・教育活動等に対する寄付金です。

大学・中高・小学校・こども園の person 費、教育研究活動に要する経費等に対し、国や県から交付される補助金です。その他、市補助金・私立学校設備費補助金・大学等研究設備整備費等補助金などの補助金も計上されます。

有価証券、特定資産、株式、預貯金からの利息、配当金、分配金等です。低金利水準のもとで、安全性と利回りを重視した、多様で効率の良い運用に努めました。

有価証券の売却に伴う差益です。

大学学生寮の寮費、各種講座受講料、外部から委託を受けた研究費の収入などです。

退職基金財団交付金、入学案内販売収入等、上記の科目のいずれにも該当しない収入がここに入ります。

固定資産(土地、建物、備品、図書など)の取得額と、将来の固定資産取得資金の組入額や特定目的(奨学事業・課外活動事業など基金)のための基本金組入額です。当年度は下記の組入れを行いました。
第1号基本金 大学(固定資産関係)約9億円
各校(固定資産関係)約7億1,700万円
第2号基本金 中高(校地再整備資金) 2,000万円
第3号基本金 大学(給付奨学金基金) 1,000万円

専任教職員や非常勤講師、嘱託職員、役員、臨時職員などの給与、退職給与引当金繰入額です。

学生・教員の教育研究活動に要した諸経費で、消耗品費、光熱水費、旅費交通費、奨学金、印刷製本費、賃借料、委託費などがあります。この他、消費収支計算書に特有なものとして、減価償却額が含まれています。

総務や人事、経理など法人業務に要した経費や、教職員の福利厚生費、学生募集に係る経費などが含まれています。

銀行からの借入金に対する利息です。

建物の取壊しに伴う損益を計上しています。

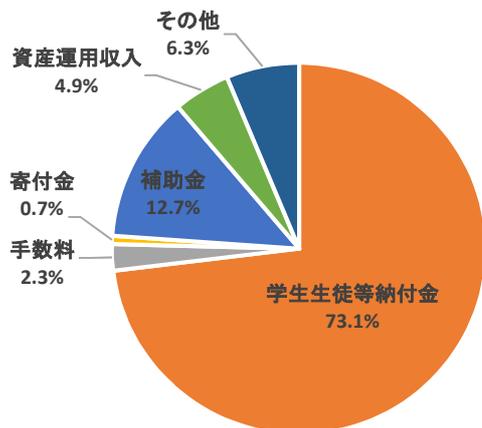
消費収入から消費支出を差し引いたものであり、収支均衡の状態を示します。2014年度は約24億円の支出超過となりました。

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	14,551,405,000	14,000,273,314	551,131,686
手数料	385,309,000	434,541,650	△ 49,232,650
寄付金	121,859,000	142,377,392	△ 20,518,392
補助金	2,452,619,000	2,430,023,343	22,595,657
資産運用収入	572,874,000	939,575,764	△ 366,701,764
資産売却差額	0	102,384,348	△ 102,384,348
事業収入	408,023,000	367,672,714	40,350,286
雑収入	496,358,000	739,702,549	△ 243,344,549
帰属収入合計	18,988,447,000	19,156,551,074	△ 168,104,074
基本金組入額合計	△ 1,973,246,000	△ 1,647,980,018	△ 325,265,982
消費収入の部合計	17,015,201,000	17,508,571,056	△ 493,370,056

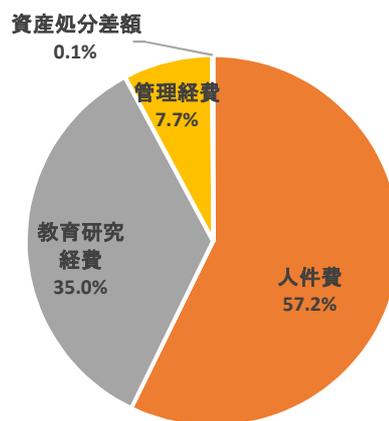
(単位 円)

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	11,068,648,000	11,395,131,851	△ 326,483,851
教育研究経費	7,140,412,000	6,971,350,600	169,061,400
管理経費	1,445,212,000	1,537,354,980	△ 92,142,980
借入金等利息	627,000	625,342	1,658
資産処分差額	0	11,509,234	△ 11,509,234
徴収不能引当金繰入額	0	46,000	△ 46,000
徴収不能額	0	549,600	△ 549,600
[予備費]	[168,784,000]		
消費支出の部合計	19,654,899,000	19,916,567,607	△ 261,668,607
当年度消費支出超過額	2,639,698,000	2,407,996,551	
前年度繰越消費支出超過額	3,867,776,805	3,867,776,805	
基本金取崩額	-	15,789,392	
翌年度繰越消費支出超過額	6,507,474,805	6,259,983,964	

帰属収入構成比率



消費支出構成比率



貸借対照表

2015年 3月31日

(単位 円)

建物・構築物の主な増加分は、次の通りです。

・大学 金沢八景キャンパス
5号館(建築・環境棟)建設工事、EF館第3期改修工事
・六中高 3号館空調設備及び内装改修工事
・小学校 管理棟 建設工事

建物・構築物の主な増加分は、次の通りです。

大学 ネットワークシステム
理工 建築・環境学部 実験研究用設備機器
六中高 ICT(情報通信技術)環境整備
小学校 管理棟 什器備品

大学(法科大学院を含む)、短大、中高の貸与奨学金の貸付残高です。

退職給与引当特定資産、学院基金引当特定資産、奨学基金引当特定資産、減価償却引当特定資産、第2号および第3号基本基金引当特定資産です。

資 産 の 部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	85,714,272,579	95,816,116,175	△ 10,101,843,596
有形固定資産	56,821,277,088	57,257,761,486	△ 436,484,398
土地	14,311,263,770	14,313,266,770	△ 2,003,000
建物	34,219,426,199	32,784,884,181	1,434,542,018
構築物	3,054,744,320	3,354,352,097	△ 299,607,777
教育研究用機器備品	2,378,627,075	2,593,935,341	△ 215,308,266
その他の機器備品	59,861,955	81,033,610	△ 21,171,655
図書	2,721,048,667	2,827,759,277	△ 106,710,610
車輛	29,952,722	13,368,330	16,584,392
建設仮勘定	46,352,380	1,289,161,880	△ 1,242,809,500
その他の固定資産	28,892,995,491	38,558,354,689	△ 9,665,359,198
有価証券	15,979,099,435	24,018,407,189	△ 8,039,307,754
長期貸付金	47,869,543	54,433,810	△ 6,564,267
特定資産	12,693,433,534	14,373,802,275	△ 1,680,368,741
長期前払保険料	80,865,507	267,410	80,598,097
その他	91,727,472	111,444,005	△ 19,716,533
流動資産	23,024,060,588	13,577,353,804	9,446,706,784
現金預金	16,058,496,024	5,778,451,216	10,280,044,808
未収入金	511,919,816	427,530,966	84,388,850
有価証券	6,307,206,472	7,254,703,978	△ 947,497,506
前払保険料	21,662,187	14,201,697	7,460,490
その他	124,776,089	102,465,947	22,310,142
資産の部合計	108,738,333,167	109,393,469,979	△ 655,136,812

(単位 円)

退職給与引当金は、退職金規程による期末要支給額の100%を基に計算して計上しています。

土地、建物、構築物、機器備品及び図書等の固定資産の取得額です。

新たな学校の設置、既設の学校の規模の拡大、教育の充実向上のために将来取得する固定資産の取得に充てる資産相当額です。本年度は、中高分として2,000万円を組入れました。

奨学金等の基金として継続的に保持し、運用する預金等の資産の額です。本年度は、大学の奨学基金として1,000万円を組入れました。

消費収支計算書により算出される運転資金として恒常的に保持すべき資金の額です。

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	6,679,873,923	6,392,285,921	287,588,002
長期借入金	0	62,500,000	△ 62,500,000
長期未払金	399,968,517	441,168,699	△ 41,200,182
退職給与引当金	6,279,905,406	5,888,617,222	391,288,184
流動負債	5,028,378,708	5,211,086,989	△ 182,708,281
短期借入金	62,500,000	125,000,000	△ 62,500,000
未払金	1,503,965,443	1,759,609,165	△ 255,643,722
前受金	2,596,079,150	2,554,582,530	41,496,620
預り金	865,834,115	771,895,294	93,938,821
負債の部合計	11,708,252,631	11,603,372,910	104,879,721
第1号基本金	100,592,394,500	98,790,203,874	1,802,190,626
第2号基本金	120,000,000	300,000,000	△ 180,000,000
第3号基本金	1,452,670,000	1,442,670,000	10,000,000
第4号基本金	1,125,000,000	1,125,000,000	0
基本金の部合計	103,290,064,500	101,657,873,874	1,632,190,626
翌年度繰越消費支出超過額	6,259,983,964	3,867,776,805	2,392,207,159
消費収支差額の部合計	△ 6,259,983,964	△ 3,867,776,805	△ 2,392,207,159
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	108,738,333,167	109,393,469,979	△ 655,136,812